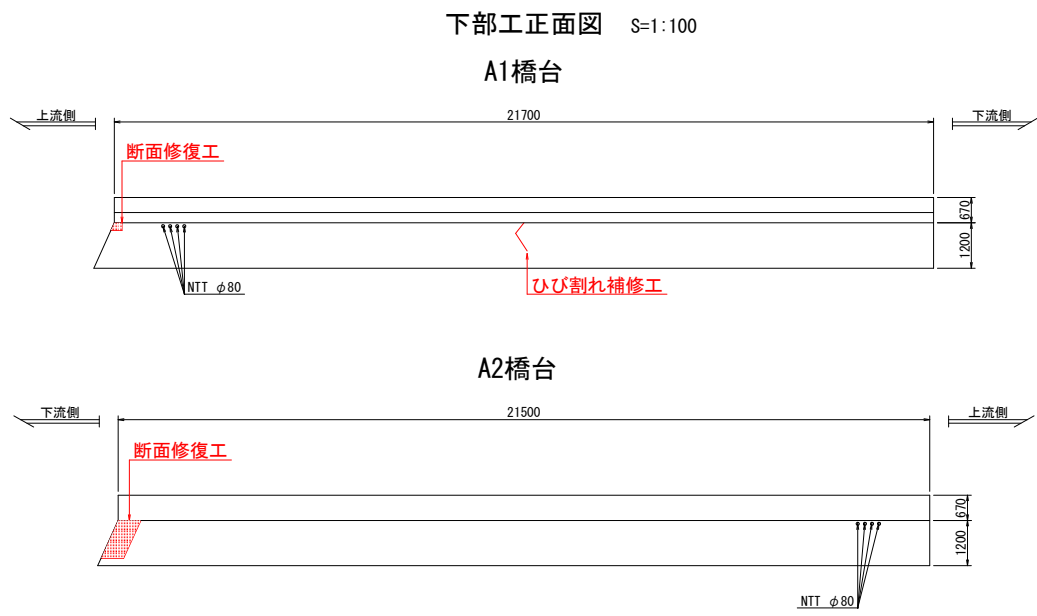
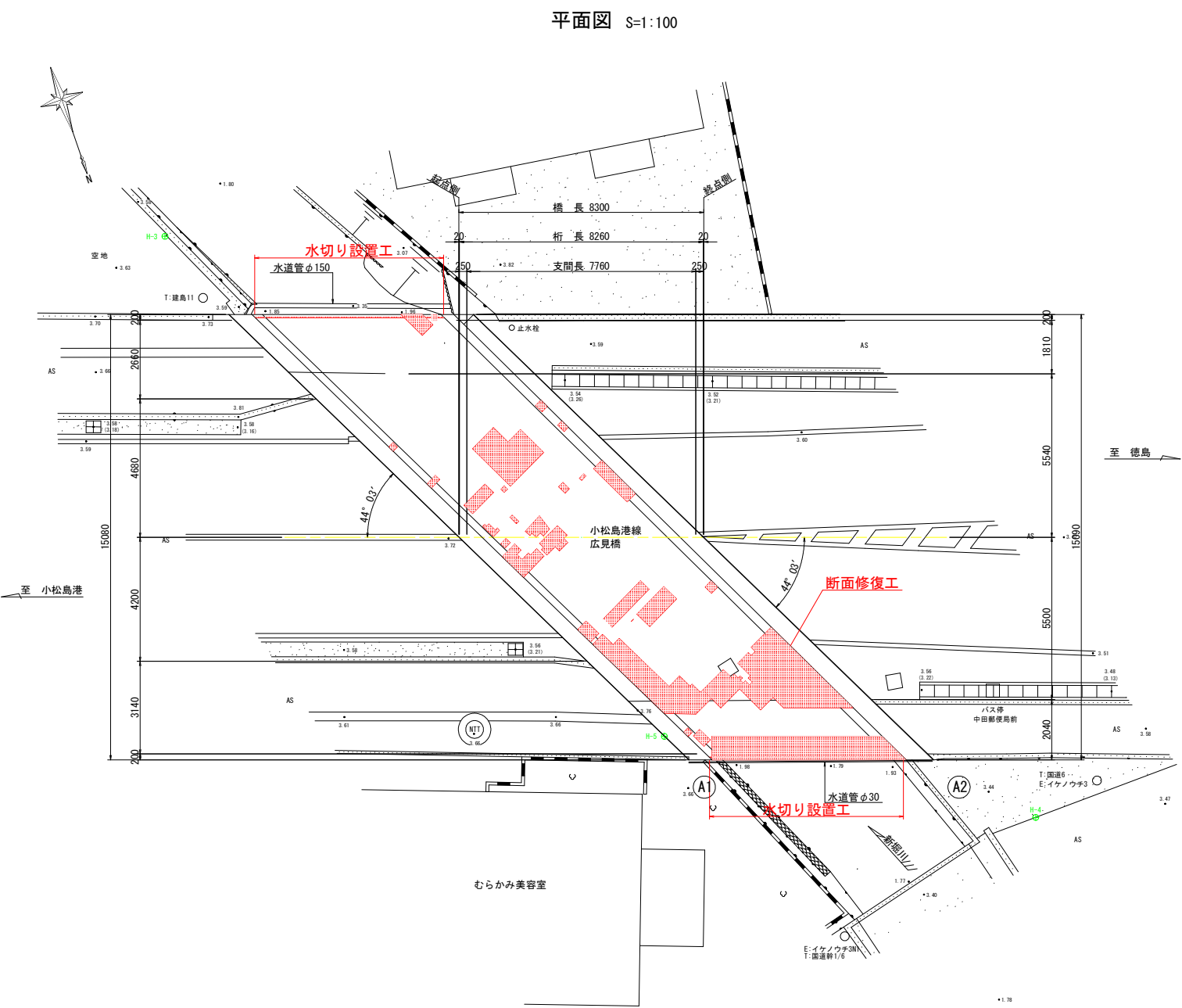
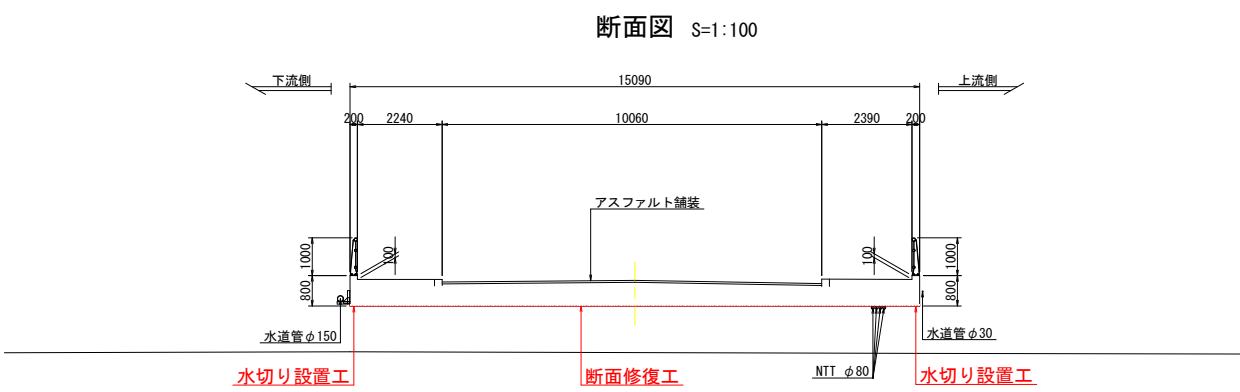
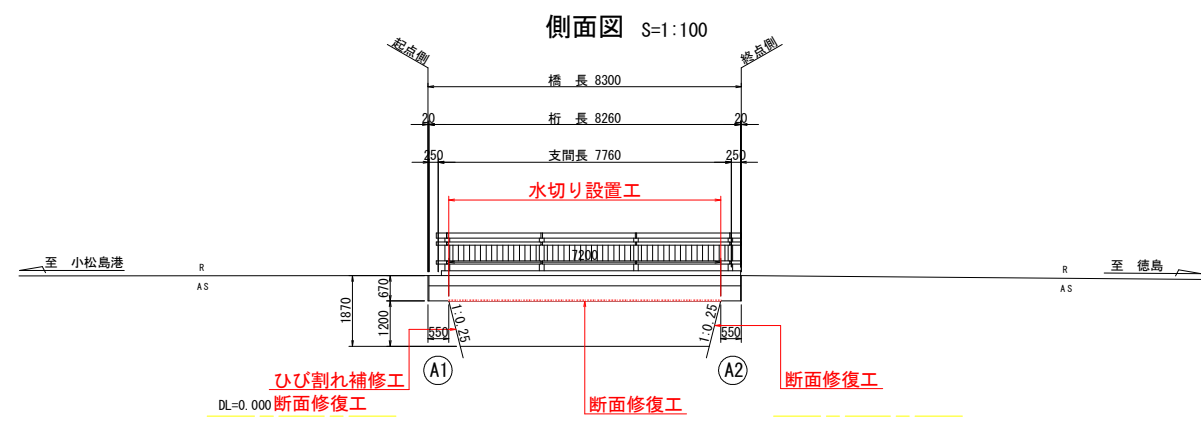


広見橋 補修計画一般図



広見橋 補修工事内容一覧

工 種	仕 様
断面修復工	ポリマーセメントモルタル
ひび割れ補修工	エポキシ樹脂低圧注入
水切設置工	あと施工型(軟質PVC)

- 注記)
1. 施工前に調査を実施し、施工範囲及び施工数量について協議を行うこと。
 2. 寸法は、現場実測後決定する。

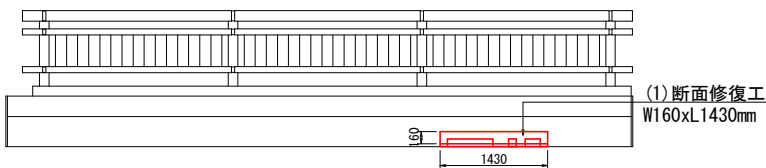
実施設計図面

工 事 名	R7徳土 小松島港線 (広見橋) 小・中田 橋梁修繕工事
路線名等	小松島港線
工事箇所	小松島市中田町 (広見橋)
図 面 名	広見橋 補修計画一般図
縮 尺	S=1:100
年 度	令和7年度
事業者名	徳島県東部県土整備局<徳島>

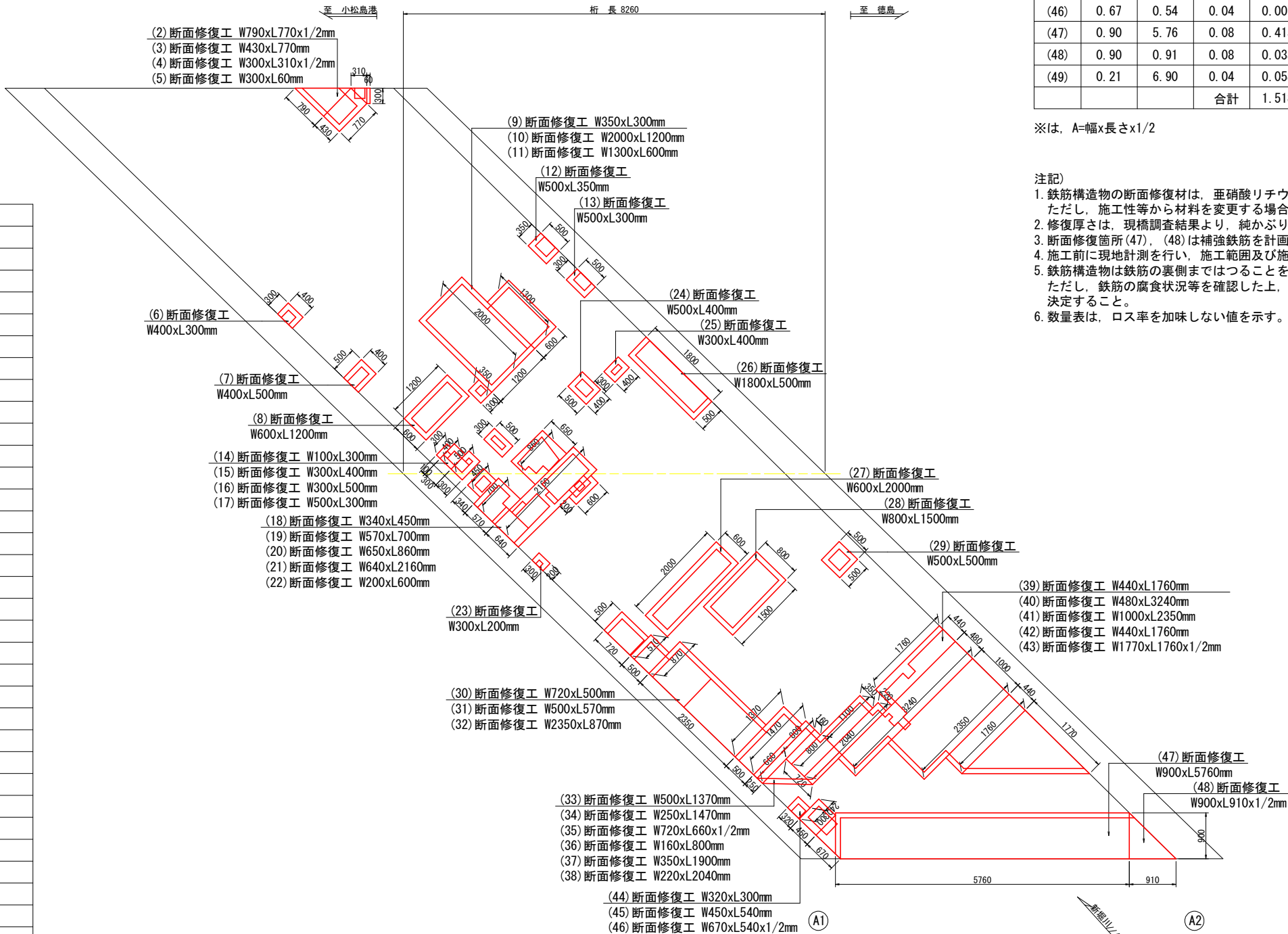
広見橋 補修工詳細図(1/3)

床版下面・地覆 補修図S=1:50

側面図(下流側地覆)



平面図



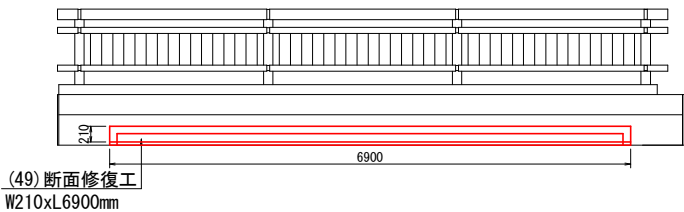
断面修復工(左官工法)					
番号	幅(m)	長さ(m)	厚さ(m)	数量(m3)	備考
(41)	1.00	2.35	0.04	0.094	床版
(42)	0.44	1.76	0.04	0.031	〃
(43)	1.77	1.76	0.04	0.062	※床版
(44)	0.32	0.30	0.04	0.004	床版
(45)	0.45	0.54	0.04	0.010	〃
(46)	0.67	0.54	0.04	0.007	※床版
(47)	0.90	5.76	0.08	0.415	床版
(48)	0.90	0.91	0.08	0.033	※床版
(49)	0.21	6.90	0.04	0.058	床版
			合計	1.518	

※は、A=幅x長さx1/2

- 注記)
- 鉄筋構造物の断面修復材は、亜硝酸リチウムを混合したポリマーセメントモルタルを基本とする。
ただし、施工性等から材料を変更する場合は協議を行い決定すること。
 - 修復厚さは、現橋調査結果より、純かぶり20mm+主鉄筋φ19=>40mm に設定している。
 - 断面修復箇所(47)、(48)は補強鉄筋を計画しているため、修復厚さを80mmに設定している。
 - 施工前に現地計測を行い、施工範囲及び施工数量について協議を行うこと。
 - 鉄筋構造物は鉄筋の裏側まではつることを原則とする。
ただし、鉄筋の腐食状況等を確認した上、はつり厚さを変更する場合は協議を行い決定すること。
 - 数量表は、ロス率を加味しない値を示す。

断面修復工(左官工法)					
番号	幅(m)	長さ(m)	厚さ(m)	数量(m3)	備考
(1)	0.16	1.43	0.04	0.009	床版
(2)	0.79	0.77	0.04	0.012	※床版
(3)	0.43	0.77	0.04	0.013	床版
(4)	0.30	0.31	0.04	0.002	※床版
(5)	0.30	0.06	0.04	0.001	床版
(6)	0.40	0.30	0.04	0.005	〃
(7)	0.40	0.50	0.04	0.008	〃
(8)	0.60	1.20	0.04	0.029	〃
(9)	0.35	0.30	0.04	0.004	〃
(10)	2.00	1.20	0.04	0.096	〃
(11)	1.30	0.60	0.04	0.031	〃
(12)	0.50	0.35	0.04	0.007	〃
(13)	0.50	0.30	0.04	0.006	〃
(14)	0.10	0.30	0.04	0.001	〃
(15)	0.30	0.40	0.04	0.005	〃
(16)	0.30	0.50	0.04	0.006	〃
(17)	0.50	0.30	0.04	0.006	〃
(18)	0.34	0.45	0.04	0.006	〃
(19)	0.57	0.70	0.04	0.016	〃
(20)	0.65	0.86	0.04	0.022	〃
(21)	0.64	2.16	0.04	0.055	〃
(22)	0.20	0.60	0.04	0.005	〃
(23)	0.30	0.20	0.04	0.002	〃
(24)	0.50	0.40	0.04	0.008	〃
(25)	0.30	0.40	0.04	0.005	〃
(26)	1.80	0.50	0.04	0.036	〃
(27)	0.60	2.00	0.04	0.048	〃
(28)	0.80	1.50	0.04	0.048	〃
(29)	0.50	0.50	0.04	0.010	〃
(30)	0.72	0.50	0.04	0.014	〃
(31)	0.50	0.57	0.04	0.011	〃
(32)	2.35	0.87	0.04	0.082	〃
(33)	0.50	1.37	0.04	0.027	〃
(34)	0.25	1.47	0.04	0.015	〃
(35)	0.72	0.66	0.04	0.010	※床版
(36)	0.16	0.80	0.04	0.005	床版
(37)	0.35	1.90	0.04	0.027	〃
(38)	0.22	2.04	0.04	0.018	〃
(39)	0.44	1.76	0.04	0.031	〃
(40)	0.48	3.24	0.04	0.062	〃

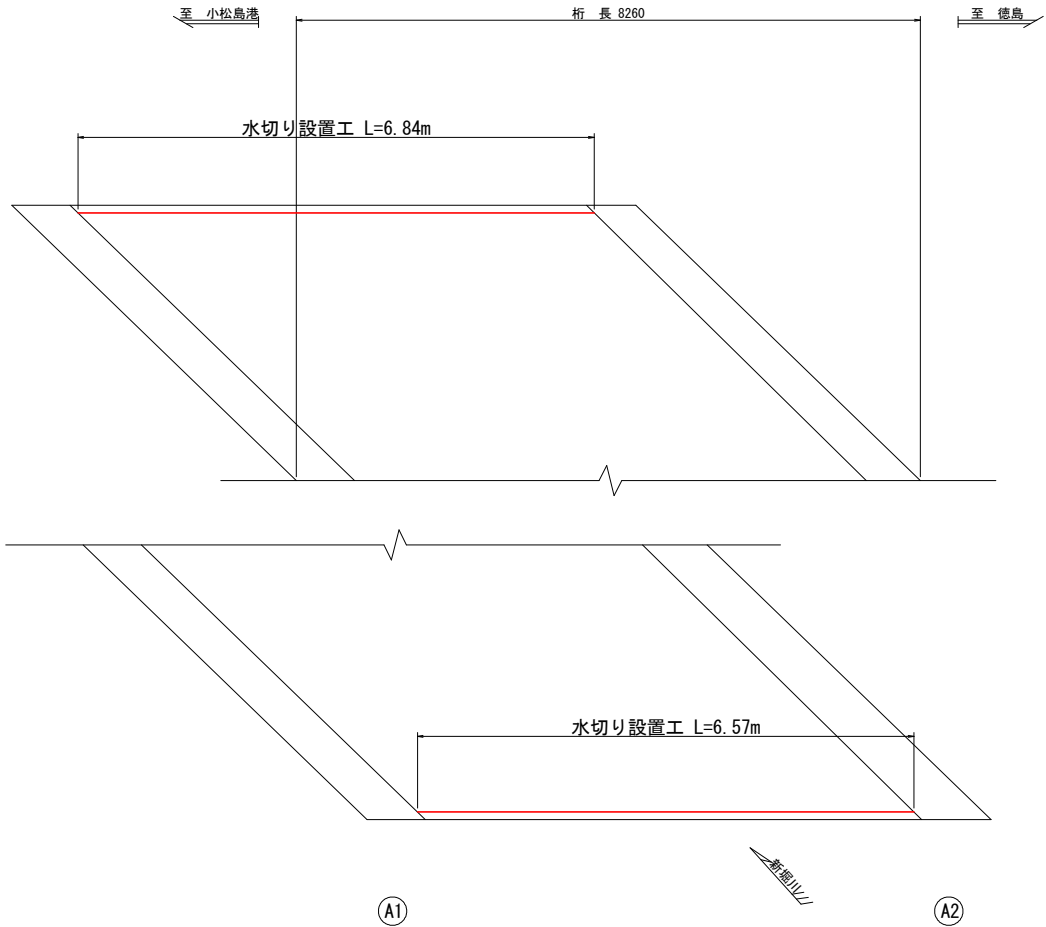
側面図(上流側地覆)



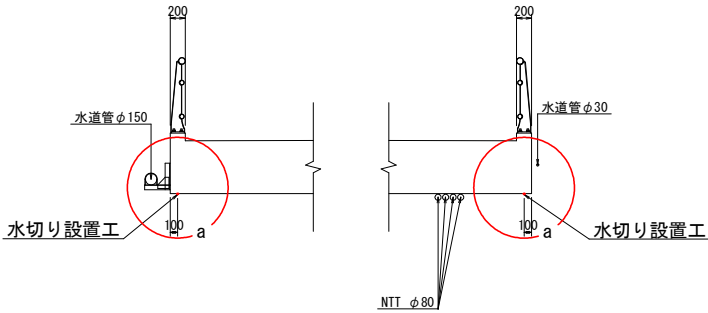
実施設計図面			
工事名	R7徳土 小松島港線(広見橋) 小・中田 橋梁修繕工事		
路線名等	小松島港線		
工事箇所	小松島市中田町(広見橋)		
図面名	広見橋 補修工詳細図(1/3)		
縮尺	S=1:50	図面番号	2 / 4
年度	令和7年度		
事業者名	徳島県東部県土整備局<徳島>		

広見橋 補修工詳細図(2/3)

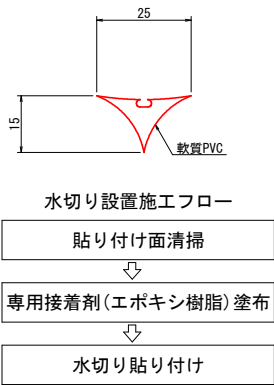
水切り設置工詳細図 S=1:50



設置位置断面図 S=1:50

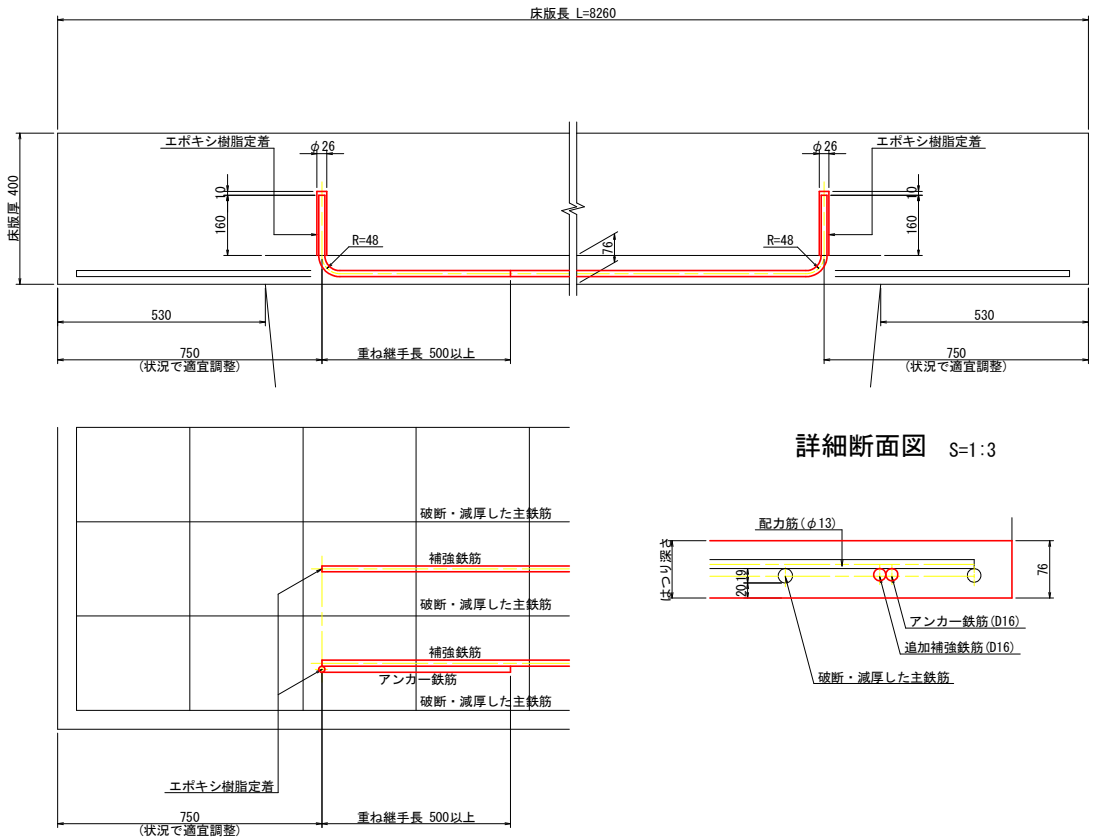


水切り詳細図(a部) S=1:1

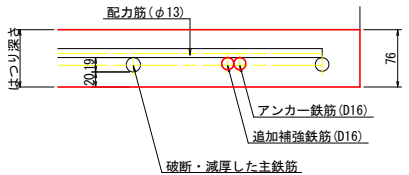


注記)
水切りは上・下流に設置すること。

床版補強筋設置要領 S=1:10

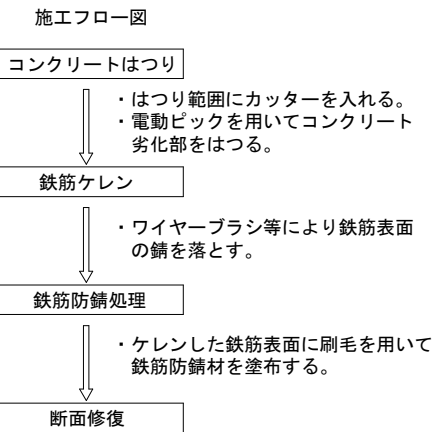
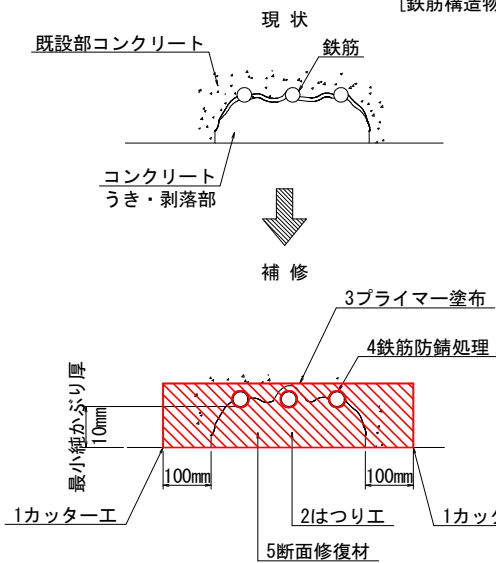


詳細断面図 S=1:3



断面修復工

〔鉄筋構造物：左官工法〕



- 1) 亜硝酸リチウムを混合したポリマーセメントモルタルをコテ塗りし、当初の形状に戻す。
- 2) 1回の埋め戻し厚は、20～30mmを標準とし、下層モルタルが十分硬化したことを確認したうえで、次層のモルタルを塗り重ねる。
- 3) 露出させた鉄筋の背面側には、断面修復材が回りにくいため、特に急に埋め戻す必要がある。
- 4) 断面修復厚さは、各部材で設定している。

断面修復材量Vは下式より算出する。
 $V=W \cdot L \cdot t \cdot 1.18$
ここに、
V : 断面修復材量
W : 修復幅
L : 修復長
t : 修復厚
1.18 : ロス率

添え筋 (SD345)					
鉄筋種別	径	L(mm)	本数	単位質量(kg)	質量(kg)
補強鉄筋	D16	6970	4	1.56	43.5
アンカー鉄筋	D16	670	4	1.56	4.2
合計					47.8

- 注記)
- 1) 補強鉄筋は、主鉄筋の破断部又は主鉄筋径が90%以下に減厚している箇所に配置する。
 - 2) 断面修復箇所(47), (48)を想定して鉄筋本数を算出。
 - 3) 追加補強鉄筋は、両側端部を床版に固定する構造とする。
 - 4) 重ね継ぎ手は適切な定着長を確保し、結束線で十分に結束を行う。
 - 5) 重ね継手箇所が同一断面にならないように、アンカー鉄筋は千鳥で配置すること。
 - 6) 補強鉄筋は断面修復材の充てんが不十分な場合が考えられるため、既設鉄筋から距離をとり、配力筋に結束すること。
 - 7) はつり作業時に既設鉄筋が落下しないよう配慮のこと。

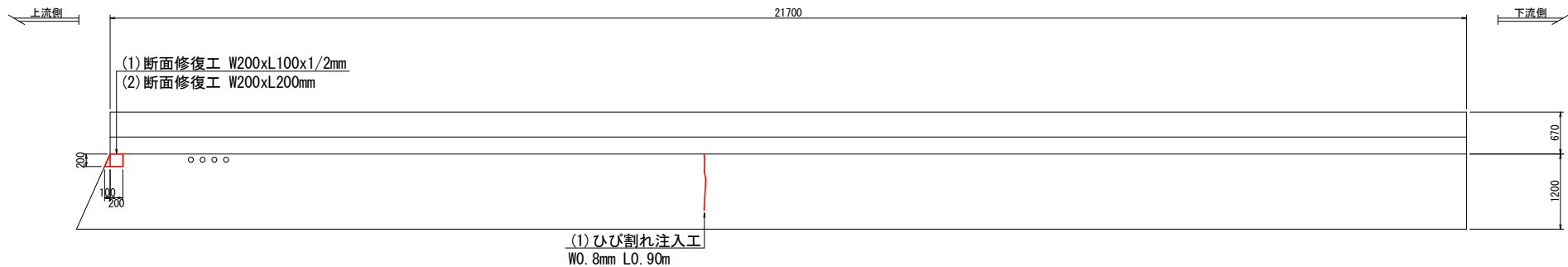
実施設計図面

工 事 名	R7徳土 小松島港線(広見橋) 小・中田 橋梁修繕工事		
路線名等	小松島港線		
工事箇所	小松島市中田町(広見橋)		
図 面 名	広見橋 補修工詳細図(2/3)		
縮 尺	図示	図面番号	3 / 4
年 度	令和7年度		
事業者名	徳島県東部県土整備局<徳島>		

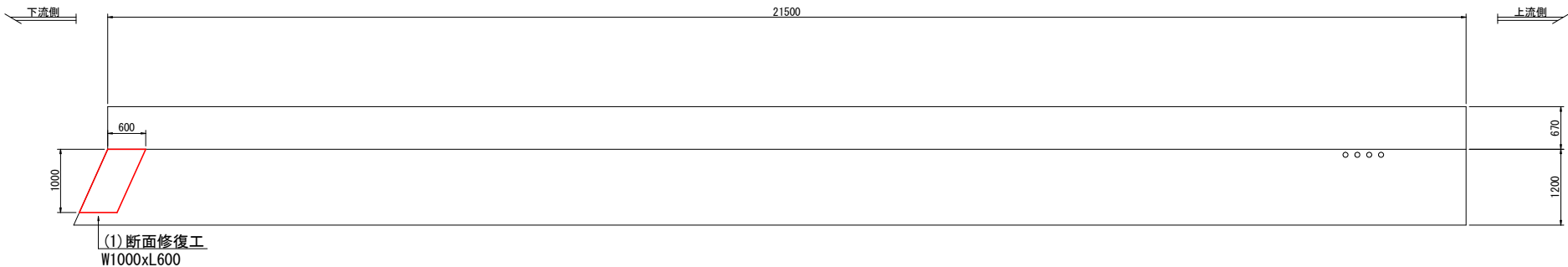
広見橋 補修工詳細図(3/3)

下部工 補修図 S=1:50

A1橋台正面図

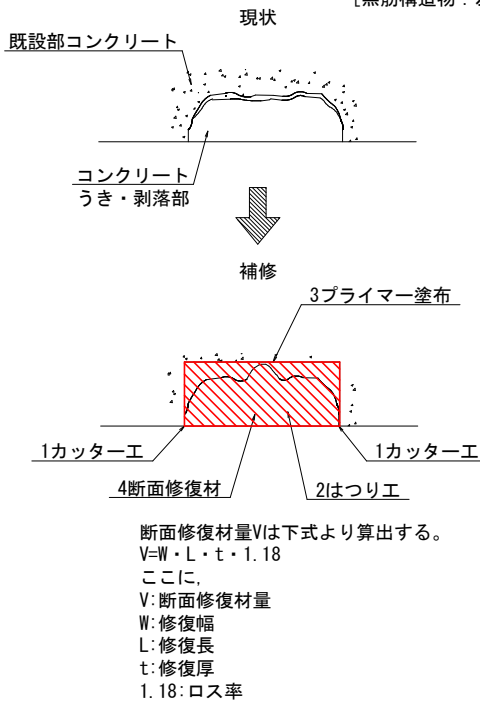


A2橋台正面図



断面修復工

[無筋構造物：左官工法]

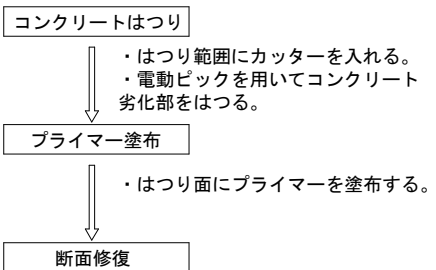


A1橋台 断面修復工(左官工法)

番号	幅(m)	長さ(m)	厚さ(m)	数量(m3)	備考
(1)	0.20	0.10	0.03	0.001	縦壁※
(2)	0.20	0.20	0.03	0.001	縦壁
			合計	0.002	

※は、A=幅x長さx1/2

施工フロー図



- 1) ポリマーセメントモルタルをコテ塗りし、当初の形状に戻す。
- 2) 1回の埋め戻し厚は、20～30mmを標準とし、下層モルタルが十分硬化したことを確認したうえで、次層のモルタルを塗り重ねる。
- 3) 断面修復厚さは、各部材で設定している。

A2橋台 断面修復工(左官工法)

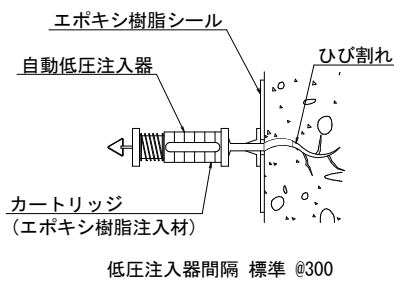
番号	幅(m)	長さ(m)	厚さ(m)	数量(m3)	備考
(1)	1.00	0.60	0.03	0.018	縦壁
			合計	0.018	

- 注記)
1. 無筋構造物の断面修復材は、ポリマーセメントモルタルを基本とする。ただし、施工性等から材料を変更する場合は協議を行い決定すること。
 2. 修復厚さは、現橋調査結果より、下部工:30mmに設定している。ただし、現地計測を行い適切な厚さを確保すること。
 3. 施工前に現地計測を行い、施工範囲及び施工数量について協議を行うこと。
 4. 数量表は、ロス率を加味しない値を示す。

ひび割れ補修工

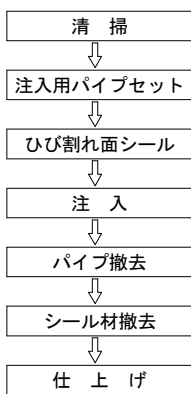
[低圧注入工法]

(エポキシ樹脂注入材 2種)



- 注入量Vは下式より算出する。
 $V=1200 \cdot b \cdot h \cdot L \cdot 1.20$
ここに、
V : 注入量
1200 : エポキシ樹脂系注入材比重
b : ひび割れ幅
h : ひび割れ深さ
L : ひび割れ延長
1.20 : ロス率

施工フロー図



A1橋台 ひび割れ補修工(低圧注入工法)

番号	幅(mm)	長さ(m)	深さ(m)	注入量(kg)	備考
(1)	0.80	0.90	0.05	0.043	縦壁
			合計	0.043	

- 注記)
1. 施工前に現地計測を行い、施工範囲及び施工数量について協議を行い決定すること。
 2. 注入工法の注入材は、エポキシ樹脂注入材2種を基本とする。ただし、施工性等から材料、種別等を変更する場合は協議を行い決定すること。
 3. 注入深さは、50mmに設定している。
 4. 数量表は、ロス率を加味しない値を示す。

実施設計図面

工事名	R7徳土 小松島港線(広見橋) 小・中田 橋梁修繕工事		
路線名等	小松島港線		
工事箇所	小松島市中田町(広見橋)		
図面名	広見橋 補修工詳細図(3/3)		
縮尺	図示	図面番号	4 / 4
年度	令和7年度		
事業者名	徳島県東部県土整備局<徳島>		